

手づくりリンク

～第22回青葉スケートリンク祭り～

2月1日(日)、青葉スケートリンクで『青葉スケートリンク祭り』（青葉スケートリンク実行委員会主催）が開催され、青葉小学校の児童たちが参加しました。

この催しは、スケートリンク実行委員会を中心に、地元町内会や青葉小学校PTAが協力して毎年スケートリンクを造成し、今年で22回目を迎える恒例行事となっています。今年は地球温暖化のため、なかなかスケートリンクが固まらず開催も危ぶまれていましたが、一部でこぼこになりながらもなんとか開催されました。

この日行われたスピード競争では、2、3人が一組になり、1～6年生が順番に思い思いの速さで滑って、手づくりリンクの氷の感触を楽しんでいました。

また、児童や保護者がおのおの家庭から持ち寄ったもので行う親子カーリングでは、中には古いケータイや鍋などを使う児童もいて、誰が一番ラインに近づけられるか、投げるたびに歓声が上がっていました。



▲スピード競争



▲親子カーリング

友好の絆 さらに強く

～サイパン中学生交流事業～



2月1日(日)から5日(木)まで、サイパンからトゥデラ市長と市職員2人、ホップウッドジュニアハイスクールの子どもたち7人が、登別市を訪れました。

昨年に引き続き行われたこの交流事業では、サイパンの中学生がホストファミリーの家にホームステイし、明日中等教育学校や登別中学校を訪れ、同世代の子どもたちと家庭科で地場の『たらこ』を使ってパスタ料理を作ったり、書道の授業で『友』という漢字を書いたりしながら交流しました。また、サンライバスキー場では、子どもたちは初めて見る雪に興味津々で、全身雪まみれになりながらソリ遊びを楽しみました。

平成18年11月に友好都市提携同意書を締結し、登別市とサイパン市は子どもたちの交流を通じて、確実に友好を深めています。

地獄谷周辺が手に取るように

1月22日(木)、登別パークサービスセンター（登別温泉地獄谷入り口）内に立体の地形模型（ジオラマ）とハイビジョン映像の観光情報システムが設置されました。

この設備は、(財)日本宝くじ協会の助成により、宝くじの普及宣伝事業として整備されたものです。

立体の地形模型は、登別温泉周辺を4,500分の1の縮尺で正確に模しており、10カ所ほどの自然観察ポイントをボタン操作によって発光ダイオードで標示。また、ハイビジョン映像では、四季折々の5つの自然観察コースをそれぞれ約4分にまとめ、42インチのハイビジョン映像で紹介してくれます。

同センターの佐々木所長は「これを機会に、地元の方も地獄谷に来ていただき、散策などして周辺の自然の豊かさなどを実感してもらいたいですね」と話してくれました。

